

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科 等)	中央大学 商学部	実施時期	2014年度 前期 : 後期
対象学年・学期・人数	3年・4年次 配当科目 45名		
講座名	特殊講義 「情報サービス産業研究 －変わりゆくIT開発現場－ 」		
連携企業・団体	一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の種類	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	<p>商学部卒業生の進路先を業界別でみると、IT業界は第4位で卒業生の多くが情報サービス産業に進んでいるが、キャリア関連科目や情報関連科目に、情報サービス産業を概観する科目が設置されていない。また、商学部には特殊講義という名前の産学連携科目が用意されており、会計関係・商社ビジネス関連の産学連携科目が用意されている。</p>		
連携の狙い、目的・目標	<p>大学での教育は理論中心となり、学生にとって、具体的イメージを持つに至らない。また学生アンケートからも学生は働くことについて不安感があつた。そこで、企業人に実際の体験や開発したソフトウェアなどを紹介していただくことにより、具体性・実践性を理解させることが目的である。</p>		
連携にあたっての課題・懸念	<p>中央大学では、産学連携科目問わず、神情協のような学外の団体に講演者を全部委託するような形態(団体が講師を派遣するタイプ)の講義が整備されていない。</p>		
講座の位置づけ 既存講座との関係	<p>情報サービス産業(IT企業などの関する)キャリア関連科目は今までに用意されてこなかった。講義科目では、「情報システム設計論」という科目が存在する。</p>		
履修前提条件	特になし		

授業準備と実施の体制	<p>特殊講義担当教員が、学生へのシラバス作成や成績管理を行う。</p> <p>毎回、派遣講師の講義の内容に沿った A4 判 1 枚のレポート(レポートの問いは、担当教員が作成)が出され、学生はその日の指定された時間に事務室に提出する。その他、協会からのアンケートについては授業終了後 5 分前に時間を取り記入提出をしてもらう。学期の最後に確認テストを行った。</p> <p>毎回の講義では、講義のスライドを印刷して配布している。</p>
成績評価の方法	<p>成績評価は、出席代替りのレポート(レポートを出さないと欠席と判断)の 14 回分と、学期末に行う確認テストを合わせて評価を行う。</p>

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分 (1コマ 90 分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	3項の「支援企業・団体からの情報」の項参照	なし	

演習・実習の内容 必要なマシン環境 等	演習・実習はしていない
---------------------------	-------------

2. 講座実施後の情報

受講者の声（受講目的、修得目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 業界の話を実際に現場で働いている方々から聞いたこと。 ・毎回講師が変わるため、内容がかぶる。 ・テストを無くしてほしい。 ・教材をまったく使わないので、買うことの意味を知りたい。
受講者の感想（本講座で得られたもの）	<p>受講者の 4 分の 1 の学生が IT 関連の仕事に就きたいと回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生の IT 企業社長のお話を聞くことが出来た。 ・就活前の人には参考になる講義でした。 ・IT 業界に進むことに対して、楽しみな思いを持つことが出来た。 ・マイクを使わない方もいたので、たまに聞こえないこともあった。 ・一人一人の講師の方が懇切丁寧に教えていただいた。
先生の評価	<p>担当教員が担当している別の情報関連科目において、学期に 1 回学部講師を呼び講演会を開催していた。それは、情報科目の性格上、教育内容が流動的で最新の技術（知識）がすぐ陳腐化してしまう変動が大きな内容を扱うからである。だからこそ、このような 15 回（現場をよく知り、知識のみならず、経験も持つ）講師らが講演してくれることの価値は大きいと考える。</p> <p>商学部（文系）において、就職先の動向からも、文系学部の中では比較的情報サービス産業（IT 企業）に学生が進む可能性が高い。つまり、潜在的に IT に対する興味があると考えており、普通の講義ではない、半分キャリア科目的な側面の本講義の意義は大きい。また、履修者を見ると経済学部の学生が他学部履修していたことも新しい発見である。</p> <p>学生の評価からもわかるように、学生は SE に対する誤解があり、本講義を通して、その誤解が解けたならば、大変満足度の高い講義が設定できたのではないかと考える。</p>
企業・団体による評価	<p>学生に IT 業界について知って貰える場を頂けたことは意義がある。毎回の講義にそれぞれの担当教授が積極的に関わって頂いて当講座への大学としての協力的姿勢を感じる。</p>

今後の展望（継続に向けた課題）	<p>前にも述べたように、中央大学では、学外の団体に講演者を全部委託するような形態（団体が講師を派遣するタイプ）の講義が整備されていないので、その形態について継続的に検討する。</p> <p>今年度初めての講義で学生に周知されていないところもあるので、引き続き、学部内で科目の広報をしようとする。</p>
-----------------	--

3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称:大学向けSE講座 講義形式:SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会(会員企業の認定講師)	費用	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の14回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義:01(ガイダンス) 講義:02(SEとは) 講義:03(SEのマネジメントスキル) 講義:04(情報システムの企画と提案) 講義:05(システム設計の概要) 講義:06(システムテストと運用テストの意義) 講義:07(情報サービス産業界の現状) 講義:08(データベースの知識) 講義:09(ネットワークの知識) 講義:10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義:11(プロジェクトマネジメント) 講義:12(SEのベーススキルと関連知識) 講義:13(特別講義、システム化事例紹介) 講義:14(授業全般の総括とまとめ)		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため13名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。 講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。 この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。		